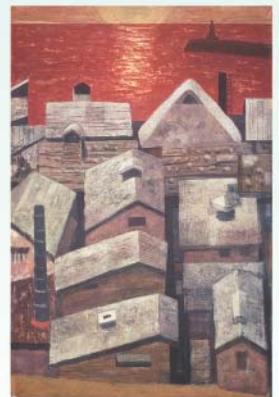


収蔵品展 日本画の秋・工芸の秋



菊池契月《露の朝》

佐久市立近代美術館の約3,400点の収蔵作品の中から、秋の風景
・植物・動物をテーマに、日本画作品と工芸作品を展示します。
「芸術の秋」に美術館で、名品をお楽しみください。

【会期中のイベント】

■「工芸の秋」ワークショップ

- ①本物そっくり！ ベットボトル絵付け
ベットボトル型の磁器に、アクリル絵の具で本物そっくりに絵付けをしてみよう！

日時：9月8日(日) 13:30～16:00
会場：佐久市立近代美術館 視聴覚室
参加費：1セット500円

対象：小学生（保護者同伴）
定員：15組（1組につき小学生2名まで）
講師：藤野 勝則（陶芸作家）
申込方法：9月1日(日)から6日(金)まで電話（0267-67-1055）で受付（休館日は除く）
※定員になり次第受付終了

②陶芸を楽しく学ぶ！【佐久市立近代美術館友の会事業】
陶土から器をつくり薪窯で焼成するワークショップです。

日時：9月22日(日) ①10:00～11:30 ②13:30～15:00
薪窯での焼成は11月下旬（ワークショップ当日連絡）
会場：佐久市立近代美術館 視聴覚室
参加費：1セット500円
対象：小学校4年生以上
定員：各回20名
講師：城田 領（佐久市立近代美術館友の会・陶芸作家）
申込方法：9月1日(日)から20日(金)まで電話（0267-67-1055）で受付（休館日は除く）
※定員になり次第受付終了

■学芸員によるギャラリートーク

9月28日(土) 10:30～（約40分）

■「ぞっこん！さく市」無料開放

駒場公園で開催の「ぞっこん！さく市」にあわせ、美術館を無料開放します。
10月5日(土)・6日(日)

■トークフリーテー（会話を楽しみながらの鑑賞を推奨する日）

9月29日(日)・10月5日(土)・6日(日)

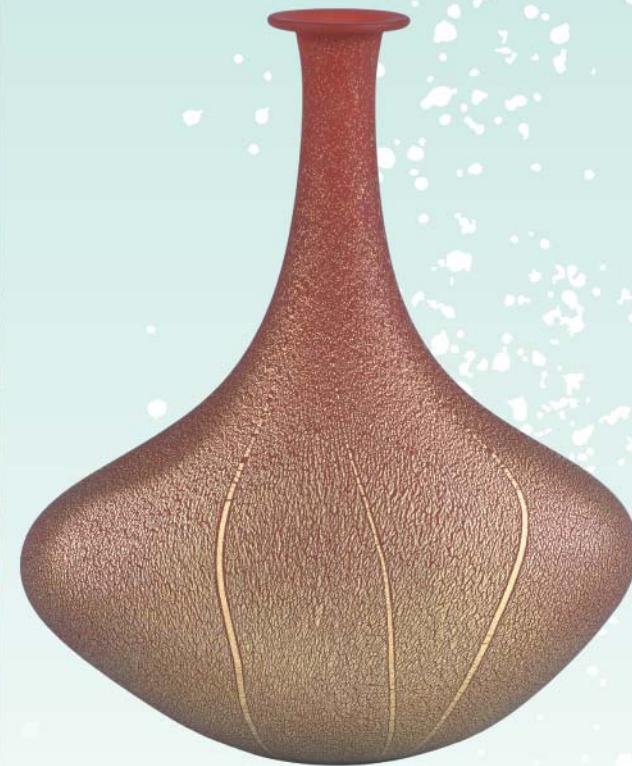


アクセス

- JR北陸新幹線佐久平駅からタクシー約10分
- JR小海線北中込駅から徒歩約15分
- 上信越自動車道佐久ICまたは
佐久平スマートIC (ETC専用) から約15分
- 中部横断自動車道佐久中佐都ICから約10分



山口華楊《素秋》



岩田久利《夕焼の路》

収蔵品展

日本画の秋・工芸の秋

2019.8.31 (土) — 10.14 (月・祝)

■同時開催

寄贈30周年記念
吉沢三朗中国陶磁器コレクション展
(軽井沢町・佐久市所蔵)

■開館時間 9:30～17:00

■会期中の休館日 毎週月曜日（祝日の場合翌日）

■観覧料 ※消費税改正に伴い、10月1日から観覧料を変更いたします。

【9月30日まで】

一般 500(400)円／高校・大学生 400(300)円／小・中学生 250(200)円＊
※（）内は団体料金

【10月1日から】

一般 520(410)円／高校・大学生 410(310)円／小・中学生 260(200)円
※（）内は団体料金

- 障がい者手帳等の提示により無料（本人及び介助者1名）
- 佐久市オールマイティパスの提示により無料（本人のみ）
- 全国子育て支援パスポートの提示により団体料金（同行者全員対象）
- 団体料金20名以上

★8月31日・9月1日は、「ミュージアム王国 信州とあそぼ！」ミュージアム
・スタンプラリー2019開催期間につき、小・中学生の観覧料が無料です。

主催：佐久市・佐久市教育委員会



《染付黄彩雲龍文皿》（吉沢三朗コレクション）



寄贈30周年記念 吉沢三朗中国陶磁器コレクション展



◆吉沢三朗コレクションとは

「吉沢三朗コレクション」は、埼玉県比企郡吉見町出身の吉沢三朗（1887-1958）が収集した、紀元前5世紀から19世紀の中 国陶磁器・青銅器等のコレクションです。

吉沢は、獨逸学協会学校（現獨協中学校・高等学校）・早稲田大学専門部在学中から漢籍、書道、茶道等を学び、その後、宋 学を学び中国の陶芸書を読んで中国陶磁器に興味を覚え、中国へ行くことを決意したといいます。1912年に南京・中華民国法 政大学の教授となってからは、念願だった中国の陶磁史研究と陶磁器収集を開始し、1927年に帰国してから生涯を終えるまで の約40年間、幅広い年代の中国陶磁器の収集を続けました。

吉沢の没後、吉沢の子息で佐久市立国保浅間総合病院名誉院長の吉沢國雄（1915-2008）は、軽井沢町の宅地内の「吉沢三朗 記念館」において、コレクションを公開してきましたが、1990年に軽井沢町歴史民俗資料館に元時代以前の資料44点、佐久市 立近代美術館に明・清時代の資料42点を寄贈しました。以来、両館で保存・展示しています。

◆軽井沢町歴史民俗資料館

軽井沢町歴史民俗資料館は、1980年に開館した軽井沢町立の資料館です。

町内の遺跡からの出土品、中山道や明治以降の別荘地としての発展を紹介する資料、生活用具など、避暑地軽井沢の歴史と生 活に関する資料を展示しています。

また、戦国時代から元時代の中国陶磁器および青銅器（吉沢三朗コレクション）の特別展示室を設けており、この度全収蔵品 を出品しています。

所在地：長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉2112-101

開館時間：9:00～17:00（入館は16:30まで）

休館日：月曜日（祝日の場合は開館）※7月15日～10月31日は無休 ※11月16日～翌年3月31日は冬期休館

入館料：大人400（300）円、子ども200（150）円 ※（）は20名以上の団体料金

電話：0267-42-6334



軽井沢町歴史民俗資料館所蔵

①加彩舞妓俑 (かさいぶきよう)

唐時代(8世紀)

「俑」とは、墳墓に死者とともに埋葬される人形のこと。絵具は剥落しているが、もともと鮮やかな色彩が施されていた。

②青白磁瓜形水注 (せいはくじうがたすいちゅう)

北宋時代(11世紀)

この頃景德鎮窯は、青白磁を焼きはじめて頭角をあらわし、中でも銀器写しの青白磁は大変流行した。本作もその一つで、吉沢コレクションを代表する秀作。

③青磁蓮弁文碗 (せいじれんべんもんわん)

五代十国時代(10世紀)

青磁の名窯・越州窯の作。青磁を内外総体にかけるのが特徴。この時代の越州青磁は、一般に「秘色磁」とよばれた。

④三彩獅子枕 (さんさいじしまくら)

金時代(12世紀)

北宋時代から金時代にかけて、磁州窯ではたくさんの枕（陶枕）が作られた。緑・褐色・白の三色釉が施されている。

⑤青銅金銀象嵌帶鉤 (せいどうきんぎんぞうなぞう)

戦国時代(紀元前5～4世紀)

帶鉤とは、革の帯を締める金具の一種。戦国時代には青銅の帶鉤が流行した。

⑥青磁厨子 (せいじじし)

元時代(13～14世紀)

焼物で尊像を作る風習は、11世紀に始まった。厨子に納められた像は道教尊像と考えられている。

⑦綠釉壺 (りょくゆうつぼ)

唐時代(7世紀)

綠釉が胴までかかっている。素焼されたものと推測される。

佐久市立近代美術館所蔵

⑧素三彩螭龍文小瓶 (そさんさいりうちゅうもんしょうへい)

清時代(18世紀)

螭龍とは、角と鱗がない龍のことで、宋元時代から盛んに表現されるようになった。

⑨三彩童兒臥像 (さんさいどうじがぞう)

明時代(15～16世紀)

三彩は、もともと焼成温度が低く、実用具の焼造には向かないが、こうした鑑賞性の焼物に多く利用された。

⑩紅釉八角花瓶 (こうゆうはっかくかへい)

清時代(18～19世紀)

銅を呈色剤に使って、鮮紅色に仕上げた花瓶。紅釉は「宝石紅」の名で親しまれている。

⑪豆青蝦蟇水滴 (とうちんがますいてき)

清時代(18世紀)

清代陶磁では特別に、青白磁のことを「豆青」と呼ぶ。形は、蝦蟇とおぼしき怪獸である。

⑫素三彩器台 (そさんさいきだい)

清時代(18世紀)

花瓶や香炉の乗る台。素三彩とは、素地のままの白磁胎に、緑・黄・紫などの鉛釉で染め分けする技法。

⑬色繪伽藍池団壺 (いろえがらんちづぼ)

清時代(18世紀)

絵付けの技が洗練され、絵画への志向が深まった康熙年間以降の作品。

⑭染付黄彩雲龍文皿 (そめつけおうさいうんりゅうもんさら)

清・康熙年間(1662～1722)

明時代の官窯が試みた技術を、清・康熙年間に再興した染付黄彩。康熙官窯の技術の充実をうかがうことができる、吉沢コレクションの中でも特に優れた名品。